

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

サッポロホールディングス株式会社（証券コード:2501）

【据置】

長期発行体格付	A-
格付の見通し	安定的
債券格付	A-
国内CP格付	J-1

■格付事由

- サッポログループの持株会社。主力のビール類は国内大手の一角を占め、「黒ラベル」や「エビス」を主力とする。不動産は恵比寿ガーデンプレイスのほか、銀座、札幌などで賃貸物件を展開しており、業績面やコーポレートブランド形成の点で大きな寄与がある。近年、積極的な成長戦略を進めてきたが、市場環境や消費動向変化への対応を強化すべく、20/12期から「グループ経営計画2024」（20/12期～24/12期）を開始した。グループの一体性は強く、格付にはグループ全体の信用力を反映させている。
- 現在、事業基盤の再構築を進めている。低収益事業は売却や経営体制の見直しを行う一方、主力ブランドや成長戦略製品への注力を強めている。構造改革負担もあって、近年の業績は軟調な推移となっている。ただ、国内酒類では「黒ラベル」が堅調さを維持しているほか、不動産が安定収益源として業績を下支えしている。成長軌道への本格的な回復にはもうしばらく時間を要する可能性があるものの、当面も底堅く利益を確保できると考えられる。また、財務構成は引き続き、現状並みの水準を維持できるとJCRでは想定している。以上を踏まえ、格付を据え置き、見通しも安定的とした。
- 19/12期営業利益（IFRS）は122億円と前期比5.3%の増益となった。食品飲料は販売数量減やコスト上昇などで赤字となったが、酒類は前期の減損影響が無くなったことで増益を確保。不動産も増益となり、食品飲料の採算悪化をカバーした。なお、北米飲料子会社の株式を譲渡した影響で、最終利益は前期比でほぼ半減となった。20/12期会社計画では構造改革負担（50億円）を織り込み、営業利益は85億円と減益を予想する。ただ、酒類や食品飲料の増販効果などで、事業利益（粗利-販管費）は140億円（前期比19.4%増）と増益に転じる見通し。
- 財務構成に大きな変化はない。19/12期末のネットDER（金融債務ベース）は1.2倍で、10年代半ば以降、1倍台前半で推移している。安定配当を実施していることもあり、自己資本の拡充ペースは鈍い。また、不動産賃貸事業を主力の一つとするためEBITDA対比の有利子負債水準はやや高いが、問題視するほどではない。RTDの生産能力増強や不動産の新規物件取得などで、当面、比較的高水準の投資が続くことも予想されるが、財務規律はこれまで同様、順守されるとみられる。

（担当）窪田 幹也・藤田 剛志

■格付対象

発行体：サッポロホールディングス株式会社

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A-	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第28回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100億円	2013年12月5日	2020年12月4日	0.614%	A-
第30回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100億円	2015年9月10日	2020年9月10日	0.331%	A-
第31回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100億円	2016年3月22日	2021年3月22日	0.250%	A-

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第32回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100億円	2017年6月1日	2022年6月1日	0.150%	A-
第33回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100億円	2019年9月5日	2026年9月4日	0.200%	A-
第34回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100億円	2019年9月5日	2029年9月5日	0.300%	A-

対象	発行限度額	格付
コマーシャルペーパー	1,000億円	J-1

格付提供方針に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2020年2月20日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：湊岡 由典
主任格付アナリスト：窪田 幹也
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014年11月7日）、「食品」（2011年7月13日）、「持株会社の格付方法」（2015年1月26日）、「国内事業法人・純粋持株会社に対する格付の視点」（2003年7月1日）として掲載している。
- 格付関係者：
（発行体・債務者等） サッポロホールディングス株式会社
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であることを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかなるものも、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っており、JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル